

浜の活力再生プラン (第 2 期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	日置地域水産業再生委員会 ID:139013
代表者名	会長 久木留 秀行

再生委員会の構成員	江口漁業協同組合、吹上町漁業協同組合 日置市、鹿児島県（鹿児島地域振興局林務水産課）
オブザーバー	鹿児島県機船船曳網漁業者協議会西薩部会 吹上浜吾智網漁業者協議会

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	日置市 機船船曳網漁業（6 経営体）、吾智網漁業（17 名）、刺網漁業（40 名）、建網漁業（37 名）、流網漁業（36 名）、小型底引き網漁業（18 名）、かご網漁業（33 名）、延縄・一本釣り漁業（123 名） 合計 129 名 ※複合的に営んでいるため合計と一致しない
-----------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>日置市の海域は東シナ海に面した外海であり、日本 3 大砂丘の 1 つである吹上浜中央部に位置する。地域の北部海域(東市来・日吉地区)は、江口漁港(2 種)を拠点とする江口漁業協同組合(正組合員数 89 名、准組合員数 108 名)、南部海域(吹上地区)は、吹上漁港(1 種)を拠点とする吹上町漁業協同組合(正組合員数 34 名、准組合員数 61 名)がそれぞれ担っている。また、吹上漁港においては、河口港のため、台風や季節風による砂移動で満潮時にしか船の出入りが出来ず、出漁機会の逸失が深刻な問題となっている。</p> <p>日置市沿岸の海域は、遠浅の砂泥質で瀬礁が少ないことから、人工魚礁を主体とした漁場でマダイ・チダイを対象とした吾智網漁業をはじめ、ヒラメ等を対象とした刺網・一本釣り・延縄漁業の他、回遊するバショウカジキやサワラを対象とした流刺網漁業・シラスを対象とした機船船曳網漁業が営まれている。</p> <p>地域内の漁業生産量(平成 29 年)は、1306t/887 百万円であり、その大半 1072t/740 百万円は、7 統が操業する機船船曳網漁業であり、鹿児島県でも屈指のシラス生産地となっている。次いで</p>

吾智網漁業が 17 統・刺網漁業が 40 統あり、179t/115 百万円の水揚量である。

近年魚種によっては水揚量が増加しており、特にしらすでは平成 27 年以降基準年の水揚量を上回っており、マダイやサワラにおいても水揚量で基準年を上回っている。更に、近年まったくと言っていいほど水揚げの無かった月日貝が平成 29 年には 2 t を超える水揚げとなった。一方で、漁業者の減少からきす・ひらめ等は基準年比 20% 程度まで落ち込んでいる。全体的にはしらすの好漁が影響し水揚漁・水揚金額とも平成 27 年以降は基準年を上回っている（平成 25 年比 550t/525 百万円増 H30 港勢調査）

機船船曳網漁業では、漁獲から加工までを各生産組合・会社で行っており、漁業者はその給与所得で生計を成している。しらすの好不漁・チリメンの入札価格によって状況は毎年変化しているが、平成 26 年度以降は各社平均でなんとか黒字を維持している。（H26～H29 平均所得 千円・H30 浜の活力再生プラン達成状況報告）。しかし、従業員の高齢化等により労働者不足が懸念されている状況である。

機船船曳網漁業以外の漁業専門家は、吾智網漁業に加えて流網漁業やかご網漁業等を複合した漁業経営が主流であり、水産物小規模卸売市場の中核を担っている。本地域では鮮度保持・魚価向上をより進めた結果、マダイ・ヒラメ・アジ等高級魚の活魚割合が非常に高いのが特徴である。

しかしながら、近年の不漁及び燃油高騰等、経費の増大で 1 経営体あたりの水揚金額は 1,655 千円、平均漁業所得は 千円しかないことから後継者の確保が出来ておらず高齢化が進行している。（H30 浜の活力再生プラン達成状況報告）

これまで日置市の漁業者は、操業体制の見直しに伴う人件費の削減、省エネ航行の励行などコスト削減や魚価向上に取り組んできたが、更なるコスト削減や漁業関連所得の改善が急務となっている。

(2) その他の関連する現状等

日本 3 大砂丘の 1 つである吹上浜は、遠浅の地形であることからサーフィンをはじめマリンスポーツも盛んで、修学旅行生等を対象とした地引網漁体験等も行っており、海浜公園も整備され、景観も良いことから多くの観光客が訪れる。しかしながら、近年波打ち際の砂浜浸食が激しく「浜」が無くなってきている。このため、干潮時にしかサーフィンや地引網が出来ない状況である。

景観保護や海洋汚染防止のため、日置市全体での海岸一斉清掃、定期的な漂流・漂着物の処理、拾ったゴミがチケットの「はだしのコンサート」等を行っている。

また、漁業体験や地元 NPO 法人が開設する「海の学校」による教育と啓発の場の提供、港まつりや旬の地魚を用いた魚食普及イベント等を開催し、漁村の食文化の伝承機会の提供を行っている。

各漁協が経営する物産館・直売所において、鮮魚販売・水産加工品の製造・レストランでの魚食提供等を行うことで、水産物小規模卸売市場での買い支え（魚価向上）・高付加価値化・魚食普及・雇用による漁家収入の安定化等に寄与している。

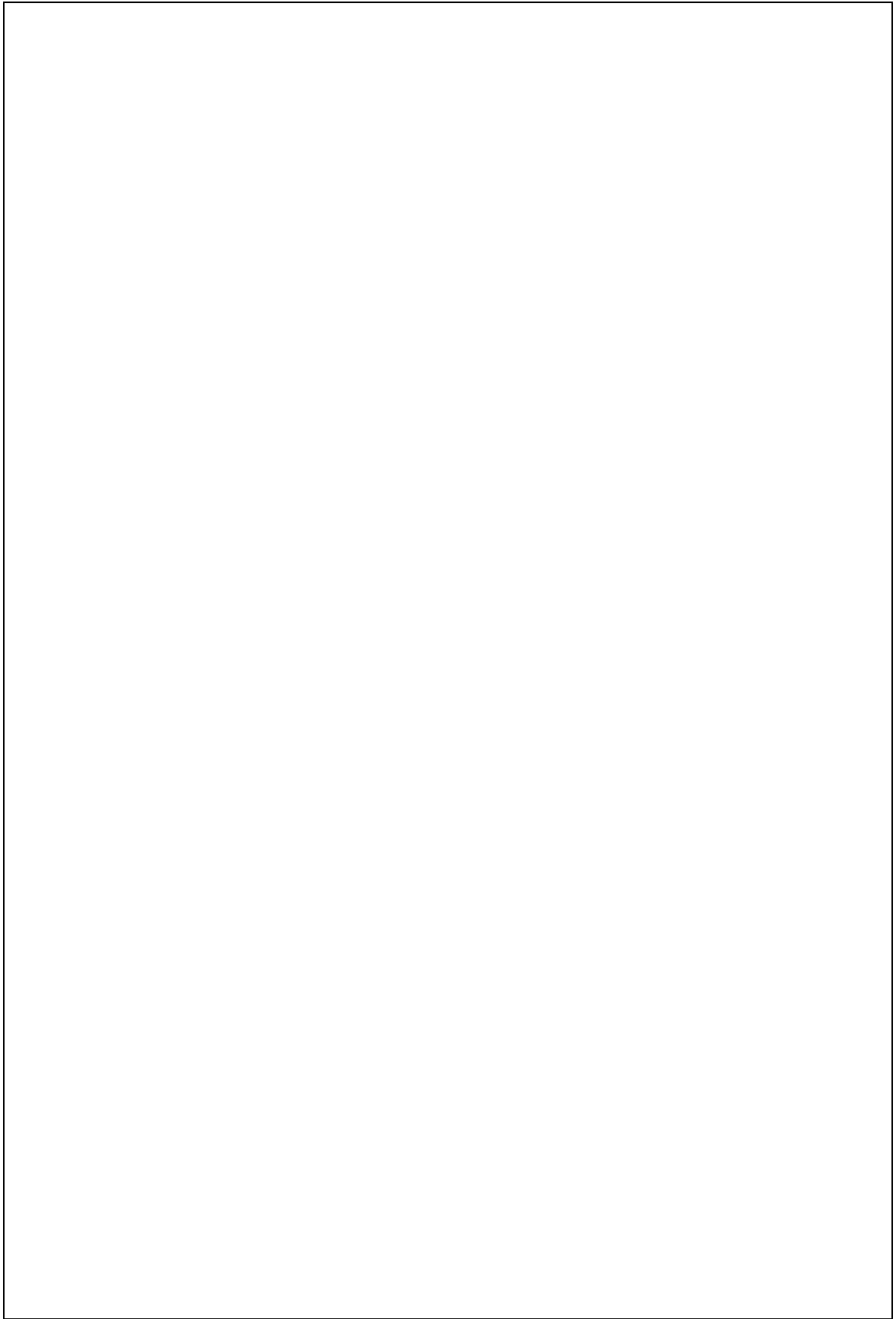
現在、急速冷凍機を活用した新商品開発に取り組み、近隣漁協及び農林産物販売施設と西薩おさかな海道・日置市直売所等ネットワークを組織し、地域一体となった販路拡大に努めている。

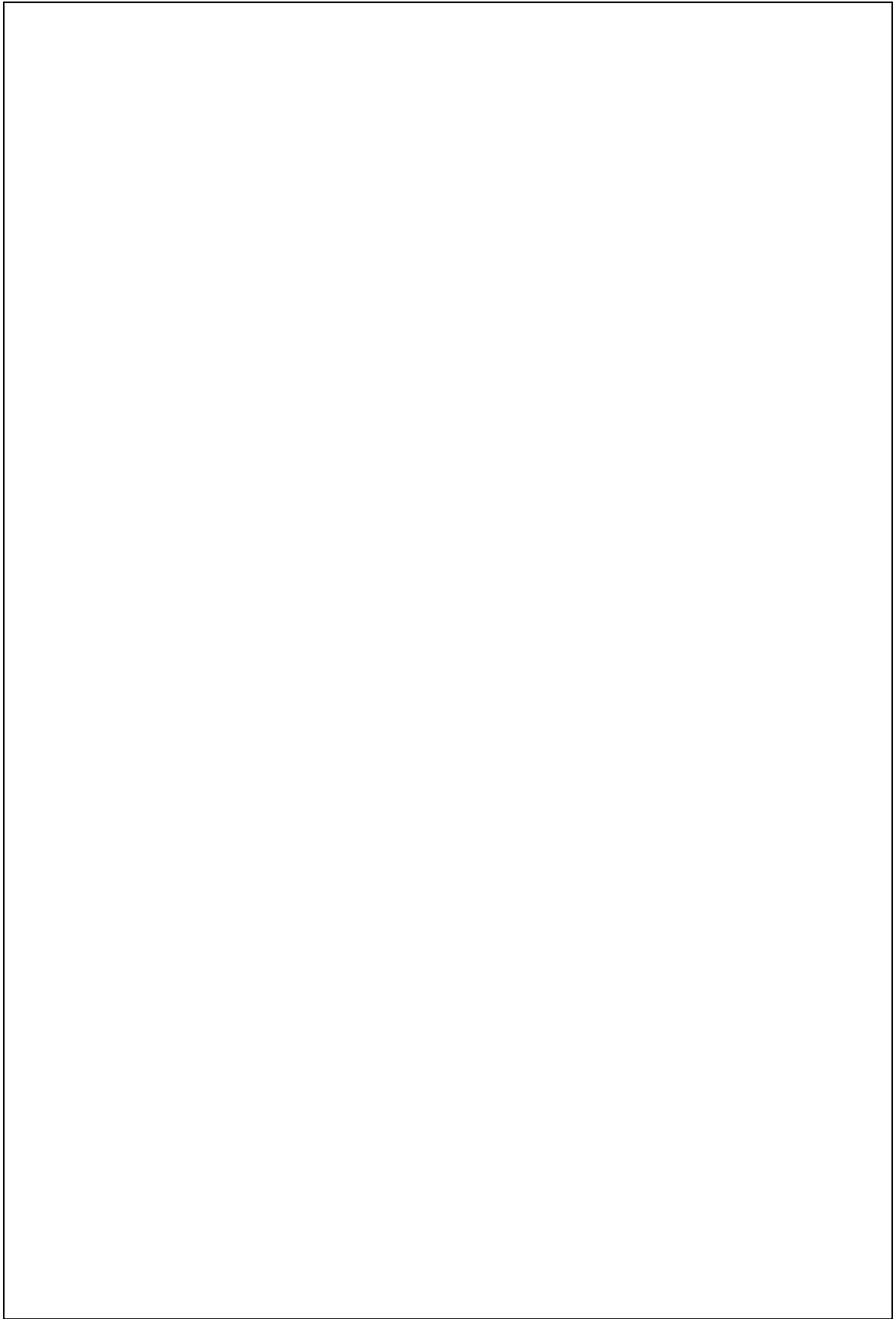
地域特産品のシラスは、そのほとんどが上乾チリメンとして出荷されるが、地域内消費は全国でも下位にあり、生産量が多いが地元消費が少ない。その為、学校給食・福祉施設への上乾チリメンの提供、各種イベントで試食会を行い、魚食普及と消費拡大に取り組んでいる。

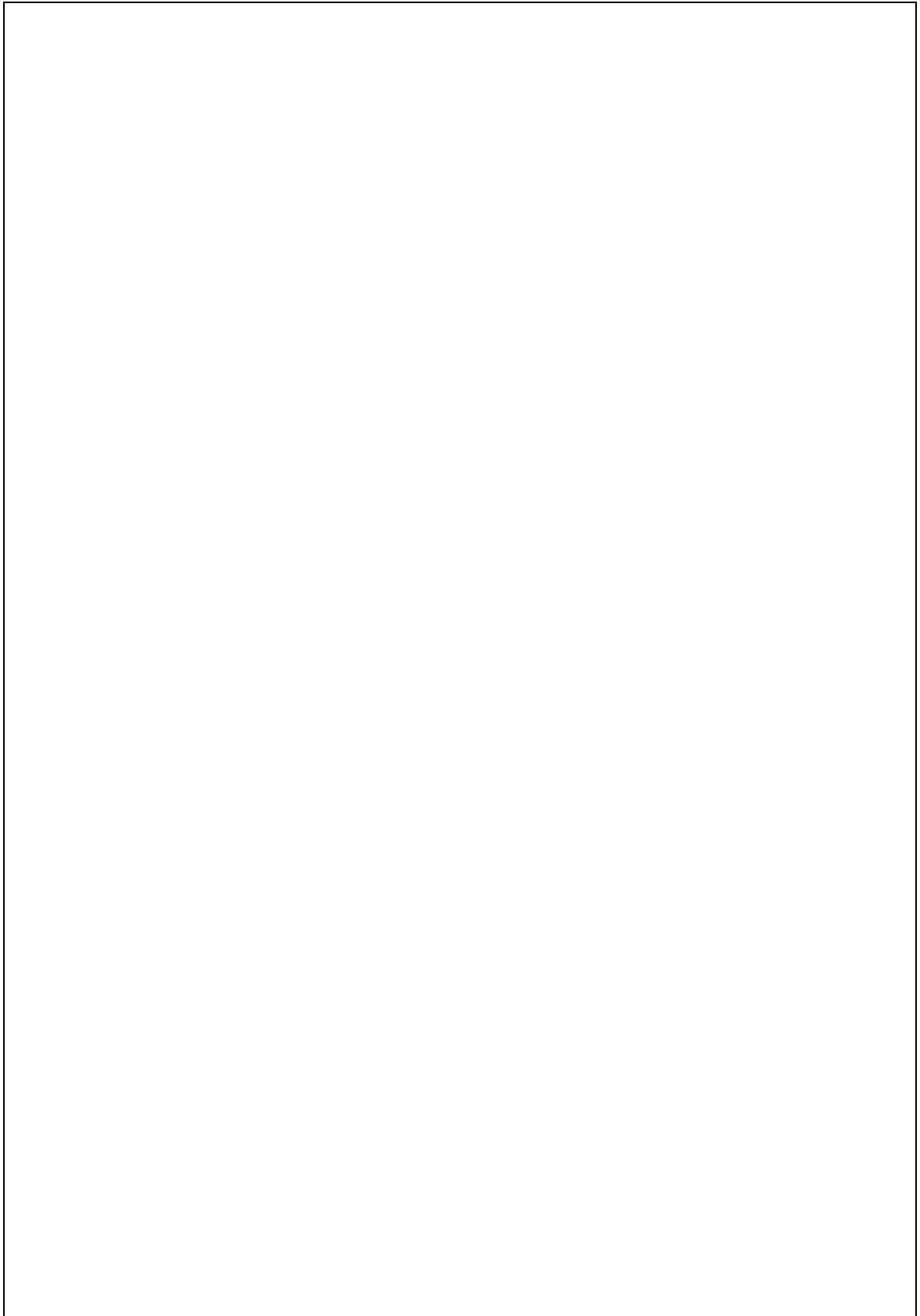
今後もこのような取組みを継続・拡充し、交流人口の増加による地域全体の活性化を図る必要がある。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等







(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

これまで効果のあった活動を継続しつつ、解決できなかった課題・新たな課題を解決するために下記の活動を行う。

1. 漁業所得の向上対策

①魚価向上（鮮度保持技術の向上及び鮮度保持のための機器導入、活魚取扱量の増加、急速冷凍機を活用した鮮魚の周年販売、漁協による水産物小規模卸売市場での買い支え、迅速な荷揚げ・屋根掛けによる鮮度保持、閉鎖型市場整備による高度衛生管理）

②販路拡大（物産館・直売所の販売力強化、他市場への出荷検討、各種商談会でのセールス、魚食普及活動の推進）

③水産加工業の振興（水産加工品の新商品開発・高付加価値化、機船船曳網漁業者の経営統合・再編による加工販売部門の分離独立、水産加工施設の整備、安定的な水産加工品製造のための人員体制確保）

④漁業種類の複合化、新規就漁者の確保等（観光地引網やワカメ養殖による所得向上、行政・各種団体の事業を活用した漁業新規就業者の確保、アワビの陸上養殖）

⑤その他関連事業（各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置、水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成・植林、海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理、港内の航路浚渫等）

2. 漁業コストの削減

①燃油コストの削減（各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行、定期的な船底等の清掃、省エネ型機器・新船の導入、情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業）

②機船船曳網漁業経営体の協業化、統合・再編による経営合理化

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

・鹿児島県漁業調整規則により、採捕出来る水産動物の体長制限や採捕禁止期間を設けるとともに、漁法等の制限を行っている。

・漁協の漁業権行使規則により、採捕出来る水産動物の体長制限や採捕禁止期間を設けている。

・鹿児島海区漁業調整委員会指示により、マダイ・ヒラメの体長制限を設けている。

・増殖礁周辺では、通年ですべての漁業を自粛し、水産資源の維持・回復に努めている。

・藻場造成、マダイ・ヒラメ稚魚の放流、イカの産卵床の設置を行い、水産資源の回復に努めている。

・江口漁協が独自で小型底引網による月日貝の採捕禁止期間（4月～8月）を設けている。

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成31年度) 機船船曳網漁業: 基準年より漁業所得 2.66%向上を目指す

その他漁業: 基準年より漁業所得 7.91%向上を目指す

漁業収入向上のための取組	<p>①魚価向上</p> <p>1)鮮度保持技術の向上による魚価の向上を図る</p> <p>サワラ・サゴシは、資源管理内容シートの漁獲量予測においてこれまでの平均位を横ばいで推移する予想である。収益率を上げるために、先進地研修で学んだ鮮度管理技術等を習得して単価の高いさわらの出荷を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">・一本釣漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、血抜きが不十分であると臭みが強くなり商品価値が落ちることから、引き続き生き締め及び船上血抜きの徹底を行い、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。・サワラ流網漁業者は、漁獲されたサワラ・サゴシの鮮度保持のために、岡山市中央卸売市場での視察による成果を生かし、血抜きや漁獲物の保冷の方法を徹底し、魚体の損傷を極力防ぐことで品質向上及び魚価の向上を図る。・吾智網漁業者は、高水温期で漁獲量が少なくなる秋口にカジキ流し網漁を行い、鹿児島島の秋の風物詩であるバショウカジキを夜間に漁獲しているが、引き続き流網の巡回回数を維持し(30分おき)、網にかかったカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 <p>以上の取り組みにより基準年よりも1.0%の魚価向上を目指す。</p> <p>2)活魚取扱量の増加による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・吾智網漁業者は、これまで漁獲物を船倉水槽を用いて搬送しているが、夏場高水温になることにより、搬送中に魚が弱ったり、斃死することが多い。今後、水温を20℃以下に保つための船倉水槽保冷機を順次導入し、単価の高い活魚としての取扱量を増やすことで、基準年よりも3.50%の魚価の向上を図る。・消費者の安全安心に対するニーズの高まりに対応するため、高度衛生管理が可能となる閉鎖型市場への更新が必要となる。江口漁協は江口漁港管理者である県に対して閉鎖型市場整備に関する要望を行っていく。 <p>3)急速冷凍機を活用したバショウカジキの周年販売</p> <p>バショウカジキは、資源管理内容シート漁獲の動向予測においてほとんど漁獲が無い状態となっている。ただし、過去の漁獲量の推移から獲れる年は30トンほどの漁獲がある。まとまって獲れる年に対応できる加工、流通体制の検討が必要になってくる。</p>
--------------	---

・吾智網漁業者が漁獲するバショウカジキは、5本/日以上水揚げされると地元消費だけでは賄い切れない為、市場価格が下落する。漁協が平成25年度に整備した超低温冷凍庫を活用し、江口蓬莱館での周年販売が可能となったことから、一期目と同様に漁協が買い支えを行い、また、取扱い量を増やすことで魚価の向上を図り、基準年より2.50%の向上を目指す。

4) 漁協による水産物小規模卸売市場での買い支え

・江口漁協では、日置市が整備した物産館施設「江口蓬莱館」を指定管理者として運営しているが、新鮮な海産物と地元食材を利用したレストランが好評で、年間40万人以上の来館者と約10億円の売上高がある。

また、吹上町漁協ではふるさと納税返礼品向けに地魚の干物を提供しており、好評を博している。

漁協は、一期目と同様に、漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館向け及び干物加工向けに安定的に仕入れること、さらに取扱い量を増やすことにより、基準年より3.0%の魚価向上を目指し漁業者の収入向上を図る。

5) ポンツーン設置・荷捌き施設の屋根掛け

・迅速な荷揚げと、荷揚げされた鮮魚に直接日光が当たることを防ぐため、江口漁協は鹿児島県に対して引き続きポンツーンの設置と荷捌き施設の屋根掛けを要望していく。

6) 食品加工会社との連携

・水揚げされる未利用魚に関して、食品加工会社に新商品開発を依頼し、価値の創出を行う。

② 販路拡大

1) 物産館・直売所の販売力強化

・江口蓬莱館で引き続き独自販促イベントを年10回開催し、集客数と販売額の増加を図る。

・江口蓬莱館は日置市が所有しており、江口漁協が指定管理者となっている。指定管理者納付金を日置市に対して支払っている他、施設の改修等に関しても日置市による施工となっており、必要な時に必要な対策がとれない現状となっている。

自由度の高い経営を目指すためにも、施設の払下げの早期の実現に向けて日置市と協議を行う。

・漁協は、西薩海道や日置市直売所ネットワーク等各種団体とタイアップしたイベントを日置市内外の直売施設で引き続き実施（年3回程度）する。

2) 魚食普及活動の推進

・日置市が日置市内各物産館に整備した映像放映機器を利用し、引き続き地魚や水産物の魅力を伝える映像コンテンツを放映することで、消費者の

水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。

・漁協は、旬の地魚(2月:ヒラメ、4月:マダイ、5月:しらす、9月:バシヨウカジキ、10月:生しらす)を使用した試食イベントを日置市内各直売施設において実施し、魚食の普及・拡大に努める。

3) 県外市場への出荷

・平成30年度に行った研修視察において、岡山市中央卸売市場から冬場のサワラ取り扱いについて打診があったことから、試験的な出荷を行い、輸送コスト等の検証を行う。この取り組みにより、基準年より0.5%の魚価向上を目指す。

4) 消費者への直接販売

・漁協は、地魚が豊漁時に卸売業者に低価格で競り落とされていることから、インターネット通信販売を通して鮮魚・加工品を消費者へ直接販売する方策を検討する。

③水産加工業の振興

1) 生しらす潮香蟹の生産体制確立

しらすは、資源管理内容シートの漁獲量予測において、100トン程度の漁獲量が続く予想となっている。これまでの漁獲量と比べて半分程度と厳しい予想なので、収益率を上げる体制の構築(経営体の統合や競合化等)やこれまで以上に付加価値の高い商品開発や販売が必要になってくる。

・漁協は、生しらす潮香蟹の生産体制を確立するため、機船船曳網漁業者から生しらす用のしらすを安定的に供給してもらえるよう協議し、基準年よりも0.05%の魚価向上を目指す。また手狭となっている江口蓬莱館加工室以外の加工施設整備の検討を行う。

2) 加工体制の充実

マダイは、資源管理内容シートの漁獲量予測において、漁獲の動向は上向きとなっているが、漁獲量が上がれば単価が下がる傾向にあるので、加工場の整備等付加価値向上が必要になる。

・江口漁協は、浜プラン第1期中に開発した新商品である「タイカツ」・「サゴシフライ」の他、生しらす潮香蟹、養殖を行っているワカメの新たな加工品製造をスムーズに行うため、手狭となっている江口蓬莱館加工室以外の加工施設整備を検討する。施設建設場所として江口漁港区域内を第1候補とし、漁港管理者の鹿児島県と用地の貸借について協議を行う。

また、吹上町漁協はふるさと納税返礼品として売上げが好調な地魚の干物製造に関して、直売施設「おさかな館」内の加工施設が手狭となっていることから、加工施設の増床について検討を行う。

・漁協は、豊漁時に価格が下がるマダイやサゴシについて、フィレ加工・真空パック化し、通信販売などを通して通年で出荷し、魚価の向上を図る。

また、これに伴い効率化・省力化を図るため加工用機械の導入についても検討していく。

3)新商品の開発

・漁協は、引き続き漁業者と連携して低価格で取引される未利用魚と江口蓬莱館に出荷される地元産農作物を利用した中食加工食品（フライやコロッケ類）の開発・試作に取り組み、試食販売等の結果を踏まえて、準備が整ったものから順次生産・販売を行なう。高付加価値化により、低価格魚の魚価について基準年よりも43.78%の向上を目指す。

④漁業種類の複合化・新規就漁者の確保

1)観光地引き網漁

・吾智網漁業者の若手11名が漁獲量の少ない高水温期の夏場を利用し、観光地引網漁体験を実施しているが、引き続き旅行会社や各学校等に積極的にPRすることで、修学旅行生や漁業体験学習の取込みを行い、漁業所得の向上に繋げる。

また、平日の観光地引き網漁実施回数増加を目指し、観光協会等と連携していくことにより、基準年よりも6.67%の所得向上を目指す。

2)ワカメ養殖

・吾智網漁業者の若手11名が江口漁港区域内において、引き続きワカメ養殖を行い、出荷することで基準年よりも65%の漁業所得の向上を図る。

・水揚げしたワカメの加工について、現状の生・塩蔵以外の加工方法を研究する。

3)陸上養殖の検討

日置市が取り組みを検討するアワビの陸上養殖に関して、江口蓬莱館での試験販売等を通して参入に関する調査を行う。

4)新規就労希望者へ漁業研修の実施

・行政・漁協・県漁連が一体となり、吾智網・刺網漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。

⑤その他関連事業

1)共同漁業権外への漁礁整備を県へ要望し、水産資源の維持・回復を図る

2)吾智網漁業者及び漁協がマダイ・ヒラメ稚魚の放流を行い、水産資源の回復を図る

3)全漁業者が藻場造成（アマモの播種・ホンダワラの種苗ブロック投入）、これまで植林した山の管理を行い、水質の改善と生態系の維持を図る。

	<p>4) 重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。</p> <p>5) 港内航路への砂堆積により、干潮時に航行が出来ない程支障を来していることから、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。</p> <p>なお、吹上漁港においては航路の機能保全計画策定及び泊地の移転等も含めた抜本的な流砂対策について吹上町漁協より日置市へ要望を行っていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油高騰対策</p> <p>1) 全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行うことで、基準年より 0.5%消費燃油削減を目指す。</p> <p>2) 全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施し、基準年より燃油使用量を 0.5%削減を目指す。</p> <p>3) 機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的に導入し、燃油消費量を 0.1%削減を目指す。</p> <p>②漁場の共同探索</p> <p>・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。</p> <p>③機船船曳網漁業経営体の協業化、統合・再編による経営合理化</p> <p>1) 機船船曳網漁業では、経営体同士の話し合いにより出漁日の判断を行い、一斉に出漁しているが、漁獲量があまり見込めない日については、減統のうえ共同漁獲を行う。また、各経営体それぞれで行なっているしらすの一次加工においても共同操業への移行について協議を行う。</p> <p>2) 機船船曳網漁業の各経営体に対し、経営統合に関する協議の場を提供する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未定（収入向上対策①-2、収入向上対策②-3、漁業コストの削減①-3） ・水産業強化支援事業（浜の活力再生成長促進交付金）（収入向上対策①-6） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策③-2） ・日置市農林漁業新規就業者支援事業、日置市農林業後継者就業支援事業（収入向上対策④-4） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策⑤-1） ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策⑤-4）

	・日置市単独事業（収入向上対策⑤-5）
--	---------------------

2年目（平成32年度） 機船船曳網漁業：基準年より漁業所得4.86%向上を目指す
 その他漁業：基準年より漁業所得7.98%向上を目指す

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①魚価向上</p> <p>1)鮮度保持技術の向上による魚価の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きを徹底を行い、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・サワラ流網漁業者は、漁獲されたサワラ・サゴシの鮮度保持のために、引き続き血抜きや漁獲物の保冷の方法を徹底し、魚体の損傷を極力防ぐことで品質向上及び魚価の向上を図る。 ・秋口に行うカジキ流し網漁において、引き続き流網の巡回回数を維持し（30分おき）、網にかかったカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 <p>以上の取り組みにより基準年よりも1.0%の魚価向上を目指す。</p> <p>2)活魚取扱量の増加による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏場の高水温対策として水温を20℃以下に保つための船倉水槽保冷機を順次導入し、単価の高い活魚としての取扱量を増やすことで、基準年よりも3.50%の魚価の向上を図る。 ・消費者の安全安心に対するニーズの高まりに対応するため、高度衛生管理が可能となる閉鎖型市場への更新に関して、江口漁協は江口漁港管理者である県に対して、引き続き閉鎖型市場整備に関する要望を行っていく。 <p>3)急速冷凍機を活用したバショウカジキの周年販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バショウカジキが、5本/日以上水揚げされた場合は漁協が買い支えを行い、超低温冷凍庫を活用して江口蓬莱館での周年販売を行うことで、魚価の向上を図ることで基準年より2.5%の向上を目指す。 <p>4)漁協による水産物小規模卸売市場での買い支え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、これまでと同様漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、基準年より3.0%の魚価向上を目指し漁業者の収入向上を図る。 <p>5)ポンツーン設置・荷捌き施設の屋根掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速な荷揚げと、荷揚げされた鮮魚に直接日光が当たることを防ぐため、江口漁協は鹿児島県に対して引き続きポンツーンの設置と荷捌き施設の屋
---------------------	--

根掛けを要望していく。

6) 食品加工会社との連携

・水揚げされる未利用魚に関して、食品加工会社に新商品開発を依頼し、試作品の試食会などを開いて消費者ニーズの把握を行い、共同で開発を進める。

②販路拡大

1) 物産館・直売所の販売力強化

・江口蓬莱館で引き続き独自販促イベントを年10回開催し、集客数と販売額の増加を図る。

・江口蓬莱館施設の払下げに関して、引き続き日置市と協議を行う。

・漁協は、西薩海道や日置市直売所ネットワーク等各種団体とタイアップしたイベントを日置市内外の直売施設で引き続き実施（年3回程度）する。

2) 魚食普及活動の推進

・日置市が日置市内各物産館に整備した映像放映機器を利用し、引き続き地魚や水産業の魅力を伝える映像コンテンツを放映することで、消費者の水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。

・漁協は、旬の地魚（2月：ヒラメ、4月：マダイ、5月：しらす、9月：バシヨウカジキ、10月：生しらす）を使用した試食イベントを日置市内各直売施設において実施し、魚食の普及・拡大に努める。

3) 県外市場への出荷

・岡山市中央卸売市場へ向けた冬場のサワラについて、引き続き試験的な出荷を行い、輸送コスト等の検証を行う。この取り組みにより、基準年より0.5%の魚価向上を目指す。

4) 消費者への直接販売

・インターネット通信販売を通して鮮魚・加工品を消費者へ直接販売するために、先進的事例に関する勉強会を行う。

③水産加工業の振興

1) 生しらす潮香蟹の生産体制確立

・漁協は、生しらす潮香蟹の生産体制を確立するため、引き続き機船船曳網漁業者から生しらす用のしらすを安定的に供給してもらえるよう協議し、基準年よりも0.15%の魚価向上を目指す。

2) 加工体制の充実

・江口漁協は、タイカツ・サゴシフライ、生しらす潮香蟹、ワカメの新加工品製造に必要な加工施設整備に関して引き続き検討を行う。また、施設建設予定地の江口漁港区域内の貸借について、漁港管理者の鹿児島県と引き続き協議を行う。

また、吹上町漁協は加工施設増床に係る手続き関係について調査を行い、引き続き加工施設増床に関して検討を行う。

・漁協は、豊漁時に価格が下がるマダイやサゴシについて、フィレ加工・真空パック化し、通信販売などを通して通年で出荷し、魚価の向上を図る。

また、これに伴い効率化・省力化を図るため加工用機械の導入についても検討していく。

3) 新商品の開発

・漁協は、引き続き漁業者と連携して低価格で取引される未利用魚と江口蓬莱館に出荷される地元産農作物を利用した中食加工食品（フライやコロッケ類）の開発・試作に取り組み、試食販売等の結果を踏まえて、準備が整ったものから順次生産・販売を行なう。高付加価値化により、低価格魚の魚価について基準年よりも43.78%の向上を目指す。

④ 漁業種類の複合化・新規就漁者の確保

1) 観光地引き網漁

・吾智網漁業者の若手11名が漁獲量の少ない高水温期の夏場を利用し、観光地引網漁体験を実施しているが、引き続き旅行会社や各学校等に積極的にPRすることで、修学旅行生や漁業体験学習の取込みを行い、漁業所得の向上に繋げる。

また、平日の観光地引き網漁実施回数増加を目指し、観光協会等と連携していくことにより、基準年よりも13.33%の所得向上を目指す。

2) ワカメ養殖

・吾智網漁業者の若手11名が江口漁港区域内において、引き続きワカメ養殖を行い、出荷することで基準年よりも93.75%の漁業所得の向上を図る。

・水揚げしたワカメの加工について、現状の生・塩蔵以外の加工品の試作を行う。

3) 陸上養殖の検討

日置市が取り組みを検討するアワビの陸上養殖に関して、引き続き江口蓬莱館での試験販売等を通して参入に関する調査を行う。

4) 新規就労希望者へ漁業研修の実施

・行政・漁協・県漁連が一体となり、吾智網・刺網漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。

⑤ その他関連事業

1) 共同漁業権外への漁礁整備を県へ要望し、水産資源の維持・回復を図る

2) 吾智網漁業者及び漁協がマダイ・ヒラメ稚魚の放流を行い、水産資源の回復を図る

	<p>3)全漁業者が藻場造成（アマモの播種・ホンダワラの種苗ブロック投入）、これまで植林した山の管理を行い、水質の改善と生態系の維持を図る。</p> <p>4)重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。</p> <p>5)港内航路への砂堆積により、干潮時に航行が出来ない程支障を来していることから、漁業者及び漁協は、漁港管理者（江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市）へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。</p> <p>なお、吹上漁港においては航路の機能保全計画策定及び泊地の移転等も含めた抜本的な流砂対策について吹上町漁協より日置市へ要望を行っていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油高騰対策</p> <p>1)全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行うことで、基準年より0.5%消費燃油削減を目指す。</p> <p>2)全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施し、基準年より燃油使用量を0.5%削減を目指す。</p> <p>3)機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的に導入し、燃油消費量0.1%削減を目指す。</p> <p>②漁場の共同探索</p> <p>・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。</p> <p>③機船船曳網漁業経営体の協業化、統合・再編による経営合理化</p> <p>1)機船船曳網漁業では、経営体同士の話し合いにより出漁日の判断を行い、一斉に出漁しているが、漁獲量があまり見込めない日については、減統のうえ共同漁獲を行う。また、各経営体それぞれで行なっているしらすの一次加工においても共同操業への移行について協議を行う。</p> <p>2)機船船曳網漁業の各経営体に対し、経営統合に関する協議の場を提供する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未定（収入向上対策①-2、収入向上対策②-3、漁業コストの削減①-3） ・水産業強化支援事業（浜の活力再生成長促進交付金）（収入向上対策①-6） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策③-2） ・日置市農林漁業新規就業者支援事業、日置市農林業後継者就業支援事業（収入向上対策④-4） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策⑤-1）

	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策⑤-4） ・日置市単独事業（収入向上対策⑤-5）
--	---

3年目（平成33年度） 機船船曳網漁業：基準年より漁業所得7.05%向上を目指す
 その他漁業：基準年より漁業所得8.16%向上を目指す

漁業収入向上のための取組	<p>①魚価向上</p> <p>1)鮮度保持技術の向上による魚価の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きを徹底を行い、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・サワラ流網漁業者は、漁獲されたサワラ・サゴシの鮮度保持のために、引き続き血抜きや漁獲物の保冷の方法を徹底し、魚体の損傷を極力防ぐことで品質向上及び魚価の向上を図る。 ・秋口に行うカジキ流し網漁において、引き続き流網の巡回回数を維持し（30分おき）、網にかかったカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 <p>以上の取り組みにより基準年よりも1.0%の魚価向上を目指す。</p> <p>2)活魚取扱量の増加による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏場の高水温対策として水温を20℃以下に保つための船倉水槽保冷機を順次導入し、単価の高い活魚としての取扱量を増やすことで、基準年よりも3.50%の魚価の向上を図る。 ・消費者の安全安心に対するニーズの高まりに対応するため、高度衛生管理が可能となる閉鎖型市場への更新に関して、江口漁協は江口漁港管理者である県に対して、引き続き閉鎖型市場整備に関する要望を行っていく。 <p>3)急速冷凍機を活用したバシヨウカジキの周年販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バシヨウカジキが、5本/日以上水揚げされた場合は漁協が買い支えを行い、超低温冷凍庫を活用して江口蓬莱館での周年販売を行うことで、魚価の向上を図ることで基準年より2.5%の向上を目指す。 <p>4)漁協による水産物小規模卸売市場での買い支え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、これまでと同様漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、基準年より3.0%の魚価向上を目指し漁業者の収入向上を図る。 <p>5)ポンツーン設置・荷捌き施設の屋根掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速な荷揚げと、荷揚げされた鮮魚に直接日光が当たることを防ぐため、江口漁協は鹿児島県に対して引き続きポンツーンの設置と荷捌き施設の屋
--------------	--

根掛けを要望していく。

6) 食品加工会社との連携

・水揚げされる未利用魚に関して、食品加工会社に新商品開発を依頼し、試作品の試食会などを開いて消費者ニーズの把握を行い、共同で開発を進める。

② 販路拡大

1) 物産館・直売所の販売力強化

・江口蓬萊館で引き続き独自販促イベントを年10回開催し、集客数と販売額の増加を図る。

・江口蓬萊館の指定管理者期限が平成33年度で切れるため、平成34年度の施設の払下げに向けて、日置市と協議を行う。

・漁協は、西薩海道や日置市直売所ネットワーク等各種団体とタイアップしたイベントを日置市内外の直売施設で引き続き実施（年3回程度）する。

2) 魚食普及活動の推進

・日置市が日置市内各物産館に整備した映像放映機器を利用し、引き続き地魚や水産業の魅力を伝える映像コンテンツを放映することで、消費者の水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。

・漁協は、旬の地魚（2月：ヒラメ、4月：マダイ、5月：しらす、9月：バシヨウカジキ、10月：生しらす）を使用した試食イベントを日置市内各直売施設において実施し、魚食の普及・拡大に努める。

3) 県外市場への出荷

・岡山市中央卸売市場へ向けた冬場のサワラについて、コスト縮減について関係者間で勉強会を開催し、出荷を行っていく。この取り組みにより、基準年より0.5%の魚価向上を目指す。

4) 消費者への直接販売

・インターネット通信販売を通して鮮魚・加工品を消費者へ直接販売を行い、基準年よりも0.1%の漁業者の所得向上を目指す。

③ 水産加工業の振興

1) 生しらす潮香蟹の生産体制確立

・漁協は、生しらす潮香蟹の生産体制を確立するため、機船船曳網漁業者から生しらす用のしらすを一定量確保し、安定的な生産を行う。これにより基準年より0.25%の魚価向上を目指す。

2) 加工体制の充実

・江口漁協は、タイカツ・サゴシフライ、生しらす潮香蟹、ワカメの新加工品製造に必要な加工施設整備に関して引き続き検討を行う。また、施設建設予定地の江口漁港区域内の貸借について、漁港管理者の鹿児島県と契

約を行う。

・漁協は、豊漁時に価格が下がるマダイやサゴシについて、フィレ加工・真空パック化し、通信販売などを通して通年で出荷し、魚価の向上を図る。

また、これに伴い効率化・省力化を図るため加工用機械の導入についても検討していく。

3) 新商品の開発

・漁協は、引き続き漁業者と連携して低価格で取引される未利用魚と江口蓬莱館に出荷される地元産農作物を利用した中食加工食品（フライやコロッケ類）の開発・試作に取り組み、試食販売等の結果を踏まえて、準備が整ったものから順次生産・販売を行なう。高付加価値化により、低価格魚の魚価について基準年よりも43.78%の向上を目指す。

④ 漁業種類の複合化・新規就漁者の確保

1) 観光地引き網漁

・吾智網漁業者の若手11名が漁獲量の少ない高水温期の夏場を利用し、観光地引網漁体験を実施しているが、引き続き旅行会社や各学校等に積極的にPRすることで、修学旅行生や漁業体験学習の取込みを行い、漁業所得の向上に繋げる。

また、平日の観光地引き網漁実施回数増加を目指し、観光協会等と連携していくことにより、基準年よりも20%の所得向上を目指す。

2) ワカメ養殖

・吾智網漁業者の若手11名が江口漁港区域内において、引き続きワカメ養殖を行い、出荷することで基準年よりも146.25%の漁業所得の向上を図る。

・水揚げしたワカメの加工について、完成した新加工品の試験販売を行い、消費者のニーズの把握に努める。

3) 陸上養殖の検討

日置市が取り組みを検討するアワビの陸上養殖に関して、先行する南さつま市の陸上養殖場での研修視察を行う。

4) 新規就労希望者へ漁業研修の実施

・行政・漁協・県漁連が一体となり、吾智網・刺網漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。

⑤ その他関連事業

1) 共同漁業権外への漁礁整備を県へ要望し、水産資源の維持・回復を図る

2) 吾智網漁業者及び漁協がマダイ・ヒラメ稚魚の放流を行い、水産資源の回復を図る

3) 全漁業者が藻場造成（アマモの播種・ホンダワラの種苗ブロック投入）、

	<p>これまで植林した山の管理を行い、水質の改善と生態系の維持を図る。</p> <p>4) 重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。</p> <p>5) 港内航路への砂堆積により、干潮時に航行が出来ない程支障を来していることから、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。</p> <p>なお、吹上漁港においては航路の機能保全計画策定及び泊地の移転等も含めた抜本的な流砂対策について吹上町漁協より日置市へ要望を行っていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油高騰対策</p> <p>1) 全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行うことで、基準年より 0.5%消費燃油削減を目指す。</p> <p>2) 全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施し、基準年より燃油使用量を 0.5%削減を目指す。</p> <p>3) 機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的に導入し、燃油消費量 0.1%削減を目指す。</p> <p>②漁場の共同探索</p> <p>・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。</p> <p>③機船船曳網漁業経営体の協業化、統合・再編による経営合理化</p> <p>1) 機船船曳網漁業では、経営体同士の話し合いにより出漁日の判断を行い、一斉に出漁しているが、漁獲量があまり見込めない日については、減統のうえ共同漁獲を行う。また、各経営体それぞれで行なっているしらすの一次加工においても共同操業への移行について協議を行う。</p> <p>2) 機船船曳網漁業の各経営体に対し、経営統合に関する協議の場を提供する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未定（収入向上対策①-2、収入向上対策②-3、漁業コストの削減①-3） ・水産業強化支援事業（浜の活力再生成長促進交付金） （収入向上対策①-6） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策③-2） ・日置市農林漁業新規就業者支援事業、日置市農林業後継者就業支援事業 （収入向上対策④-4） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策⑤-1） ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）

	(収入向上対策⑤-4) ・日置市単独事業 (収入向上対策⑤-5)
--	-------------------------------------

4年目 (平成34年度) 機船船曳網漁業：基準年より漁業所得 9.24%向上を目指す
 その他漁業：基準年より漁業所得 9.13%向上を目指す

漁業収入向上のための取組	<p>①魚価向上</p> <p>1)鮮度保持技術の向上による魚価の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きを徹底を行い、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・サワラ流網漁業者は、漁獲されたサワラ・サゴシの鮮度保持のために、引き続き血抜きや漁獲物の保冷の方法を徹底し、魚体の損傷を極力防ぐことで品質向上及び魚価の向上を図る。 ・秋口に行うカジキ流し網漁において、引き続き流網の巡回回数を維持し(30分おき)、網にかかったカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 <p>以上の取り組みにより基準年よりも1.0%の魚価向上を目指す。</p> <p>2)活魚取扱量の増加による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏場の高水温対策として水温を20℃以下に保つための船倉水槽保冷機を順次導入し、単価の高い活魚としての取扱量を増やすことで、基準年よりも3.50%の魚価の向上を図る。 ・消費者の安全安心に対するニーズの高まりに対応するため、高度衛生管理が可能となる閉鎖型市場への更新に関して、江口漁協は江口漁港管理者である県に対して、引き続き閉鎖型市場整備に関する要望を行っていく。 <p>3)急速冷凍機を活用したバショウカジキの周年販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バショウカジキが、5本/日以上水揚げされた場合は漁協が買い支えを行い、超低温冷凍庫を活用して江口蓬莱館での周年販売を行うことで、魚価の向上を図ることで基準年より2.5%の向上を目指す。 <p>4)漁協による水産物小規模卸売市場での買い支え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、これまでと同様漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、基準年より3.0%の魚価向上を目指し漁業者の収入向上を図る。 <p>5)ポンツーン設置・荷捌き施設の屋根掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県によりポンツーン及び荷捌き施設の屋根が完成し、迅速な荷揚げが可能となり、また荷揚げされた鮮魚に直射日光が当たることを防ぐこ
--------------	---

とで鮮度を保ち、基準年よりも 1.0%の魚価の向上を図る。

6) 食品加工会社との連携

・水揚げされる未利用魚に関して、食品加工会社が開発し、完成した新商品の出荷を開始する。食品加工会社向けに安定的に未利用魚を出荷することで、基準年よりも 5.0%の漁業者の所得向上を図る。

②販路拡大

1) 物産館・直売所の販売力強化

・江口蓬萊館で引き続き独自販促イベントを年 10 回開催し、集客数と販売額の増加を図る。

・江口漁協は、江口蓬萊館施設の払下げに関する協定を日置市と締結し、払下げを受ける。

・漁協は、西薩海道や日置市直売所ネットワーク等各種団体とタイアップしたイベントを日置市内外の直売施設で引き続き実施（年 3 回程度）する。

2) 魚食普及活動の推進

・日置市が日置市内各物産館に整備した映像放映機器を利用し、引き続き地魚や水産業の魅力を伝える映像コンテンツを放映することで、消費者の水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。

・漁協は、旬の地魚（2月：ヒラメ、4月：マダイ、5月：しらす、9月：バシヨウカジキ、10月：生しらす）を使用した試食イベントを日置市内各直売施設において実施し、魚食の普及・拡大に努める。

3) 県外市場への出荷

・岡山市中央卸売市場へ向けた冬場のサワラについて、引き続きコスト縮減について関係者間で勉強会を開催し、出荷を行っていく。この取り組みにより、基準年より 0.5%の魚価向上を目指す。

4) 消費者への直接販売

・インターネット通信販売を通して鮮魚・加工品を消費者へ直接販売を行い、基準年よりも 0.1%の漁業者の所得向上を目指す。

③水産加工業の振興

1) 生しらす潮香蟹の生産体制確立

・漁協は、生しらす潮香蟹の生産体制を確立するため、機船船曳網漁業者から生しらす用のしらすを一定量確保し、安定的な生産を行う。これにより基準年より 0.35%の魚価向上を目指す。

2) 加工体制の充実

・江口漁協は、タイカツ・サゴシフライ、生しらす潮香蟹、ワカメの新加工品製造に必要な加工施設整備に関して、加工施設的设计を行う。

また、吹上町漁協は加工施設増床に向けておさかな館改修的设计を行う。

・漁協は、豊漁時に価格が下がるマダイやサゴシについて、フィレ加工・真空パック化し、通信販売などを通して通年で出荷し、魚価の向上を図る。

また、これに伴い効率化・省力化を図るため加工用機械の導入についても検討していく。

3)新商品の開発

・漁協は、引き続き漁業者と連携して低価格で取引される未利用魚と江口蓬莱館に出荷される地元産農作物を利用した中食加工食品（フライやコロッケ類）の開発・試作に取り組み、試食販売等の結果を踏まえて、準備が整ったものから順次生産・販売を行なう。高付加価値化により、低価格魚の魚価について基準年よりも43.78%の向上を目指す。

④漁業種類の複合化・新規就漁者の確保

1)観光地引き網漁

・吾智網漁業者の若手11名が漁獲量の少ない高水温期の夏場を利用し、観光地引網漁体験を実施しているが、引き続き旅行会社や各学校等に積極的にPRすることで、修学旅行生や漁業体験学習の取込みを行い、漁業所得の向上に繋げる。

また、平日の観光地引き網漁実施回数増加を目指し、観光協会等と連携していくことにより、基準年よりも26.67%の所得向上を目指す。

2)ワカメ養殖

・吾智網漁業者の若手11名が江口漁港区域内において、引き続きワカメ養殖を行い、出荷することで基準年よりも227.81%の漁業所得の向上を図る。

・水揚げしたワカメの加工について、完成した新加工品の試験販売を行い、消費者ニーズの把握に努める。

3)陸上養殖の検討

日置市が取り組みを検討するアワビの陸上養殖に関して、日置市の取り組みに協力し、養殖のノウハウを学ぶ。

4)新規就労希望者へ漁業研修の実施

・行政・漁協・県漁連が一体となり、吾智網・刺網漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。

⑤その他関連事業

1)共同漁業権外への漁礁整備を県へ要望し、水産資源の維持・回復を図る

2)吾智網漁業者及び漁協がマダイ・ヒラメ稚魚の放流を行い、水産資源の回復を図る

3)全漁業者が藻場造成（アマモの播種・ホンダワラの種苗ブロック投入）、これまで植林した山の管理を行い、水質の改善と生態系の維持を図る。

	<p>4) 重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。</p> <p>5) 港内航路への砂堆積により、干潮時に航行が出来ない程支障を来していることから、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。</p> <p>なお、吹上漁港においては航路の機能保全計画策定及び泊地の移転等も含めた抜本的な流砂対策について吹上町漁協より日置市へ要望を行っていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油高騰対策</p> <p>1) 全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行うことで、基準年より0.5%消費燃油削減を目指す。</p> <p>2) 全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施し、基準年より燃油使用量を0.5%削減を目指す。</p> <p>3) 機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的に導入し、燃油消費量0.1%削減を目指す。</p> <p>②漁場の共同探索</p> <p>・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。</p> <p>③機船船曳網漁業経営体の協業化、統合・再編による経営合理化</p> <p>1) 機船船曳網漁業では、経営体同士の話し合いにより出漁日の判断を行い、一斉に出漁しているが、漁獲量があまり見込めない日については、減統のうえ共同漁獲を行う。また、各経営体それぞれで行なっているしらすの一次加工においても共同操業への移行について協議を行う。</p> <p>2) 機船船曳網漁業の各経営体に対し、経営統合に関する協議の場を提供する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未定（収入向上対策①-2、収入向上対策②-3、漁業コストの削減①-3） ・水産業強化支援事業（浜の活力再生成長促進交付金） （収入向上対策①-6） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策③-2） ・日置市農林漁業新規就業者支援事業、日置市農林業後継者就業支援事業 （収入向上対策④-4） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策⑤-1） ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業） （収入向上対策⑤-4）

	・日置市単独事業（収入向上対策⑤-5）
--	---------------------

5年目（平成35年度） 機船船曳網漁業：基準年より漁業所得 12.54%向上を目指す
 その他漁業：基準年より漁業所得 10.96%向上を目指す

漁業収入向上のための取組	<p>①魚価向上</p> <p>1)鮮度保持技術の向上による魚価の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きを徹底を行い、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・サワラ流網漁業者は、漁獲されたサワラ・サゴシの鮮度保持のために、引き続き血抜きや漁獲物の保冷の方法を徹底し、魚体の損傷を極力防ぐことで品質向上及び魚価の向上を図る。 ・秋口に行うカジキ流し網漁において、引き続き流網の巡回回数を維持し（30分おき）、網にかかったカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 <p>以上の取り組みにより基準年よりも1.0%の魚価向上を目指す。</p> <p>2)活魚取扱量の増加による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏場の高水温対策として水温を20℃以下に保つための船倉水槽保冷機を順次導入し、単価の高い活魚としての取扱量を増やすことで、基準年よりも3.50%の魚価の向上を図る。 ・消費者の安全安心に対するニーズの高まりに対応するため、高度衛生管理が可能となる閉鎖型市場への更新に関して、江口漁協は江口漁港管理者である県に対して、引き続き閉鎖型市場整備に関する要望を行っていく。 <p>3)急速冷凍機を活用したバショウカジキの周年販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バショウカジキが、5本/日以上水揚げされた場合は漁協が買い支えを行い、超低温冷凍庫を活用して江口蓬莱館での周年販売を行うことで、魚価の向上を図ることで基準年より2.5%の向上を目指す。 <p>4)漁協による水産物小規模卸売市場での買い支え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、これまでと同様漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、基準年より3.0%の魚価向上を目指し漁業者の収入向上を図る。 <p>5)ポンツーン設置・荷捌き施設の屋根掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県により設置されたポンツーン及び荷捌き施設の屋根を活用し、鮮度保持に努める。これにより、基準年よりも1.0%の魚価の向上を目指す。 <p>6)食品加工会社との連携</p>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・水揚げされる未利用魚に関して、食品加工会社が開発し、完成した新商品の出荷を開始する。食品加工会社向けに安定的に未利用魚を出荷することで、基準年よりも10%の漁業者の所得向上を図る。 <p>②販路拡大</p> <p>1)物産館・直売所の販売力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江口蓬萊館で引き続き独自販促イベントを年10回開催し、集客数と販売額の増加を図る。 ・江口蓬萊館施設の払下げを受けたことにより、より自由度の高い経営を行う。 ・漁協は、西薩海道や日置市直売所ネットワーク等各種団体とタイアップしたイベントを日置市内外の直売施設で引き続き実施（年3回程度）する。 <p>2) 魚食普及活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日置市が日置市内各物産館に整備した映像放映機器を利用し、引き続き地魚や水産業の魅力を伝える映像コンテンツを放映することで、消費者の水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。 ・漁協は、旬の地魚（2月：ヒラメ、4月：マダイ、5月：しらす、9月：バシヨウカジキ、10月：生しらす）を使用した試食イベントを日置市内各直売施設において実施し、魚食の普及・拡大に努める。 <p>3) 県外市場への出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市中央卸売市場向けその他、消費地へ向けた鮮魚・活魚の出荷について検討を行っていく。この取り組みにより、基準年より0.5%の魚価向上を目指す。 <p>4) 消費者への直接販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット通信販売を通して鮮魚・加工品を消費者へ直接販売を行い、基準年よりも0.1%の漁業者の所得向上を目指す。 <p>③水産加工業の振興</p> <p>1)生しらす潮香蟹の生産体制確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、生しらす潮香蟹の生産体制を確立するため、機船船曳網漁業者から生しらす用のしらすを一定量確保し、安定的な生産を行う。これにより基準年より0.5%の魚価向上を目指す。 <p>2)加工体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江口漁協は、タイカツ・サゴシフライ、生しらす潮香蟹、ワカメの新加工品製造に必要な加工施設整備に関して、加工施設の建設を行う。完成した加工施設において、タイカツを始めとした加工品の製造を行い、雇用の創出及び安定的な加工品の出荷を目指す。 <p style="text-align: center;">また、吹上町漁協はおさかな館の改修を行い、必要な加工施設のスペー</p>
--	--

スを確保する。増床された加工施設において、干物を始めとした加工品の製造を行い、安定的な出荷を目指す。

・漁協は、豊漁時に価格が下がるマダイやサゴシについて、フィレ加工・真空パック化し、通信販売などを通して通年で出荷し、魚価の向上を図る。

また、完成・増床した加工施設に加工用機械の導入し、効率的に加工品の製造を行い、これまで以上に加工用魚の買い支えを行う。

3) 新商品の開発

・漁協は、引き続き漁業者と連携して低価格で取引される未利用魚と江口蓬莱館に出荷される地元産農作物を利用した中食加工食品（フライやコロッケ類）の開発・試作に取り組み、試食販売等の結果を踏まえて、準備が整ったものから順次生産・販売を行なう。高付加価値化により、低価格魚の魚価について基準年よりも 43.78%の向上を目指す。

④ 漁業種類の複合化・新規就漁者の確保

1) 観光地引き網漁

・吾智網漁業者の若手 11 名が漁獲量の少ない高水温期の夏場を利用し、観光地引網漁体験を実施しているが、引き続き旅行会社や各学校等に積極的に PR することで、修学旅行生や漁業体験学習の取込みを行い、漁業所得の向上に繋げる。

また、平日の観光地引き網漁実施回数増加を目指し、観光協会等と連携していくことにより、基準年よりも 33.33%の所得向上を目指す。

2) ワカメ養殖

・吾智網漁業者の若手 11 名が江口漁港区域内において、引き続きワカメ養殖を行い、出荷することで基準年よりも 316.41%の漁業所得の向上を図る。

・水揚げしたワカメの加工について、完成した新加工品の試験販売を行い、消費者のニーズの把握に努める。

3) 陸上養殖の検討

日置市が取組みを検討するアワビの陸上養殖に関して、引き続き日置市の取組みに協力し、養殖のノウハウを学ぶ。

4) 新規就労希望者へ漁業研修の実施

・行政・漁協・県漁連が一体となり、吾智網・刺網漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。

⑤ その他関連事業

1) 共同漁業権外への漁礁整備を県へ要望し、水産資源の維持・回復を図る

2) 吾智網漁業者及び漁協がマダイ・ヒラメ稚魚の放流を行い、水産資源の回復を図る

	<p>3)全漁業者が藻場造成（アマモの播種・ホンダワラの種苗ブロック投入）、これまで植林した山の管理を行い、水質の改善と生態系の維持を図る。</p> <p>4)重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。</p> <p>5)港内航路への砂堆積により、干潮時に航行が出来ない程支障を来していることから、漁業者及び漁協は、漁港管理者（江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市）へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。</p> <p>なお、吹上漁港においては航路の機能保全計画策定及び泊地の移転等も含めた抜本的な流砂対策について吹上町漁協より日置市へ要望を行っていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油高騰対策</p> <p>1)全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行うことで、基準年より0.5%消費燃油削減を目指す。</p> <p>2)全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施し、基準年より燃油使用量を0.5%削減を目指す。</p> <p>3)機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的に導入し、燃油消費量0.1%削減を目指す。</p> <p>②漁場の共同探索</p> <p>・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。</p> <p>③機船船曳網漁業経営体の協業化、統合・再編による経営合理化</p> <p>1)機船船曳網漁業では、経営体同士の話し合いにより出漁日の判断を行い、一斉に出漁しているが、漁獲量があまり見込めない日については、減統のうえ共同漁獲を行う。また、各経営体それぞれで行なっているしらすの一次加工においても共同操業への移行について協議を行う。</p> <p>2)機船船曳網漁業の各経営体に対し、経営統合に関する協議の場を提供する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未定（収入向上対策①-2、収入向上対策②-3、漁業コストの削減①-3） ・水産業強化支援事業（浜の活力再生成長促進交付金） （収入向上対策①-6） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策③-2） ・日置市農林漁業新規就業者支援事業、日置市農林業後継者就業支援事業 （収入向上対策④-4） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策⑤-1）

	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策⑤-4） ・日置市単独事業（収入向上対策⑤-5）
--	---

(5) 関係機関との連携

<p>①日置市・鹿児島地域振興局</p> <p>地元の行政機関と情報の共有化・意思疎通を図りながら、各種補助事業を積極的に取り入れ、取り組みが確実に実施され、成果が上がるよう努力する。</p> <p>②鹿児島県水産技術開発センター</p> <p>アマモやホンダワラの育成及び水産加工品開発に係る指導を仰ぎ、技術向上・開発力強化を図る。</p> <p>③大隅加工技術拠点施設</p> <p>水産加工品の開発に係る試作品づくりや技術指導を受け、新商品開発に繋げる。</p> <p>④鹿児島県6次産業化サポートセンター</p> <p>6次産業化への取り組みや計画づくりについて、専門家の派遣や指導を仰ぎ、しらすと水産物の加工・販売会社を設立する。また、開発した商品の販売先等のマッチングを受け、販路拡大と販売額増加に繋げる。</p> <p>④鹿児島県漁業協同組合連合会</p> <p>鮮魚や上乾チリメン等の販売を強化するとともに消費地市場等の市況等の情報収集に努め、優位販売が出来るよう努める。</p> <p>⑤西薩おさかな海道・日置市直売所ネットワーク</p> <p>漁協が経営する物産館・直売所の販売力強化のため、地域内直販施設と一体となって各種イベントを行い、ネットワークの強化を図る。</p> <p>⑥水産流通業者・小売業者</p> <p>多数漁獲された魚種（マダイ・チダイ・上乾チリメン等）の値崩れを防止し、漁業者の所得を確保するため、販売先の多角化に努める。また、同時に消費者ニーズの情報収集を行い、商品力の向上を図る。</p>

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	<p>機船船曳網漁業者</p> <p>平成 25 年度～平成 29 年度の 5 中 3 平均： 漁業所得 千円</p> <p>その他漁業者</p> <p>平成 25 年度～平成 29 年度の 5 中 3 平均： 漁業所得 千円</p>
---------------	-----	---

	目標年	機船船曳網漁業者		
		平成 35 年度：	漁業所得	千円
		その他漁業者		
		平成 35 年度：	漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

魚価（平均単価）の向上	基準年	その他漁業者（全体）		
		平成 25 年度～平成 29 年度の		
		5 中 3 平均：	円/kg	
		その他漁業者（マダイ・サワラ）		
	目標年	平成 25 年度～平成 29 年度の		
		5 中 3 平均：	円/kg	
		その他漁業者（全体）		
		平成 35 年度：	円/kg	
	目標年	その他漁業者（マダイ・サワラ）		
		平成 35 年度：	円/kg	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>基準年：平成 25 年度から平成 29 年度のしらす以外の水揚単価をそれぞれ 5 中 3 で算定 目標年：別紙記載のとおり</p>

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
未定	1. 漁業所得の向上対策①魚価向上 2) 活魚取扱量の増加による魚価向上 ・ 船倉水槽保冷装置の導入により、夏場の活魚取扱量が増加し、魚価向上につながる。
水産業強化支援事業（浜の活力再生成長促進交付金）	1. 漁業所得の向上対策①魚価向上 6) 食品加工会社との連携 ・ 水揚げされる未利用魚に関して、食品加工会社と共同で開発を進め、安定的な出荷を行うことで魚価向上につなげる。
未定	1. 漁業所得の向上対策②販路拡大 3) 県外市場への出荷 ・ 消費地への出荷により、漁業所得の向上につながる。その際にネックとなる輸送コストを始めとする各種コストの圧縮に関する検討を行う。
種子島周辺漁業対策事業	1. 漁業所得の向上対策③水産加工業の振興 2) 加工体制の充実 ・ 第1期中に開発した新商品を始め、今期中に開発を検討するワカメの新加工品等の安定的な生産のため、加工施設の整備や既存の直売所内の加工施設スペースの増床を検討する。加工施設の稼働により、加工品用の海産物取扱量が増加し、漁業所得向上につながるとともに、加工施設の従業者としての雇用創出も見込まれる。
種子島周辺漁業対策事業	1. 漁業所得の向上対策③水産加工業の振興 2) 加工体制の充実 ・ 加工品の安定的な生産のために欠かせない機械化を検討し、必要な機器を導入する。加工品用の海産物取扱量の増加により、漁業所得の向上に繋げる。
日置市農林漁業新規就業者支援事業 日置市農林漁業後継者就業支援事業	1. 漁業所得の向上対策④漁業種類の複合化・新規就業者の確保 4) 新規就業希望者への漁業研修の実施 ・ 漁業への新規就業時の金銭的な不安への対策として、生活費・住居費の補助を行い、定着率向上に繋げる。
さつま地区広域漁場整備事業(鹿児島県)	1. 漁業所得の向上対策⑤その他関連事業 1) 漁礁整備 ・ 水産資源の減少を補うため、増殖場の設置により保護・繁殖を行い漁獲量の回復を図ることにより、所得向上に繋げる。
水産多面的機能発揮対策事業 日置市農林水産業振興事業(種苗放流事業)	1. 漁業所得の向上対策⑤その他関連事業 2) 稚魚放流 ・ 水産資源の減少を補うため、稚魚放流により保護・繁殖を行い漁獲量の回復を図ることにより、所得向上に繋げる。

水産多面的機能発揮 対策事業	1. 漁業所得の向上対策⑤その他関連事業 3) 藻場造成 ・ 水産資源の減少を補うため、藻場の造成により稚魚の生育場所の確保及び水質の向上を図ることにより、水産業の持つ多面的機能の発揮に資する。
水産多面的機能発揮 対策事業	1. 漁業所得の向上対策⑤その他関連事業 4) 漂流・漂着物の処理 ・ 重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、市民を含めて清掃作業を行うことで、水産業の持つ多面的機能の発揮に資する。
日置市単独事業	1. 漁業所得の向上対策⑤その他関連事業 5) 航路浚渫 ・ 吹上漁港の航路浚渫により、出漁機会を確保することで漁業所得の向上に繋げる。
未定	2. 漁業コストの削減①燃油コストの削減 3) 省エネ機器の導入 ・ 機関換装、新船購入の際に省エネ型機器を積極的に導入することで、燃油コストの削減に繋げる。